（別紙様式３）

令和５年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　福井県福井市大手３丁目１７番１号
管理機関名　福井県教育委員会
代表者名　　教育長　　豊北　欽一　　印

令和４年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

令和４年４月１日（契約締結日）　～　　令和５年３月３１日

２　指定校名・類型

学校名　　福井県立三国高等学校
学校長名　　冨澤　宏二
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名

「あったらいいね」をカタチにする！
～ シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる ～

４　研究開発概要

本校では、令和２年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、地域との協働による高等学校教育改革推進事業においては、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習のためのカリキュラムを開発する。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　[開設している]　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　　活用している　・　[活用していない]

※学校設定科目は令和３年度より開設

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
松田　淑子	日本大学生物資源科学部諸課程・教授	学校教育、探究学習
大森　昭生	共愛学園前橋国際大学・学長	学校教育、地域協働プログラム
林　　晃司	坂井市教育委員会・教育長	関係行政機関
峠岡　伸行	福井大学監事	企業支援、人材育成

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
福井大学国際地域学部	岡﨑　英一（学部長）
福井大学地域創生推進本部	末　信一朗（本部長）
福井工業大学	掛下　友行（学長）
仁愛女子短期大学生活科学学科	禿 正宣（学長）
坂井市議会	前田　嘉彦（議長）
坂井市総合政策部企画情報課	三上　寛司（課長）
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズＡＳ☆）	森　之嗣（会長・あわら市長）
アーバンデザインセンター坂井（ＵＤＣＳ）	土井　祥子（チーフディレクター）
みくに地区まちづくり協議会	高森　重利(会長)
地域企業（ＩＩＯプロデュース株式会社　他）	伊藤　俊輔（ＩＩＯ代表取締役社長）他
県外高等学校	鈴木　康之（静岡県立熱海高等学校長）
福井県内課題解決型学習モデル開発事業校	浅井　裕規（福井県立鯖江高等学校長）
坂井市内各中学校	荒川　　誠（あわら市金津中学校長）
一般社団法人ＢＥＡＵ	小原　　涼（代表理事）
三国高校同窓会	大和　久米登（同窓会長）
三国高校ＰＴＡ	姉崎　健司（ＰＴＡ会長）

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	石川　一郎	聖ﾄﾞﾐﾆｺ学園・ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｰｼﾞｬｰ	雇用関係なし
地域協働学習支援員	浜田　　剛	ＵＤＣＳサブディレクター	雇用関係あり
地域協働学習支援員	澤崎　敏文	仁愛女子短期大学・准教授	雇用関係なし
地域協働学習支援員	中野　圭昌	福井銀行三国支店・支店長	雇用関係なし

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程									
	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
運営指導委員会	1 回						1 回			

（2）実績の説明

・継続的な取組を行うための教員の人事面の配慮として、加配の計画
・運営指導委員会の運営および指導・助言
・地域人材の継続的な連携の支援および３者相互連携の強化
・三国高校とアーバンデザインセンター坂井（UDCS）の間で相互連携協定締結

１０　研究開発の実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コミュニティーデザイナー認定											1回	
総合探究発表会			1回					1回	1回		1回	
学校設定科目	2回	1回	2回			1回		2回				
地域探究同好会ワクワク未来考場	1回	1回	2回	4回	2回	8回	2回	3回		1回	2回	1回
教科探究学習		この期間の授業で実施										

（２）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

（ア）コミュニティーデザイナーの認定

本校では生徒が三国という地域の住民としての意識を持って、地域の未来を創造することのできる実践的な探究学習に取り組むことで、この地域の将来の地域人材として活躍するという意識を持ったコミュニティデザイナーの資格認定制度の開発に取り組んだ。今年度は、昨年度見直した認定方法を踏襲し、３年生のみ対象とし、ルーブリックの結果をもとに学年会で協議して認定した。

（イ）総合探究発表会

総合的な探究の時間での各学年の取り組みを「三高地域魅力化プロジェクト」という名称で行っている。

１年生では６月下旬にあわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズＡＳ☆）の協力を頂き、生徒の職業意識を高める催しを行った。また、三国町内の空き家活用プロジェクトを企画立案し、２学期末に実際の空き家を使って地域住民に活用方法を紹介する活動に取り組んだ。今年度も１１月上旬にコンソーシアム団体のアーバンデザインセンター坂井（UDCS）とあわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズＡＳ☆）・福井銀行・みくにまちづくり協議会の参加をいただき、生徒の考えた空き家活用アイデの発表会を実施した。また、１２月中旬には４クラスがそれぞれ１つの空き家を使い、自分たちの考えた活用方法を実践した。

２年生では地域の様々な問題について探究し、問題の解決方法を地元公共団体に提言する取り組みを行った。今年度は２学期に坂井市役所職員に来校していただき各グループの提案についてアドバイスをいただき、それを基にアイディアをブラッシュアップしていった。そして２月に坂井市議会議員８名に来校していただき、発表会を行い、高評をいただいた。

３年生では２年次までのプロジェクトの成果を研究レポートにまとめた。

（ウ）学校設定科目

「三国の文化資源探究」について　　*※３年生についての取り組み*

２年生Ⅱ系列文系の２クラスの生徒が、1学期は「三国の伝統文化」・「三国の食・物産」の分野、2学期は「三国の寺院・古墳・建築物等」・「三国の作家や芸術家」の分野、3学期は「三国のイマを盛り上げる」という新たな分野に関して、三国地域の様々な文化資源を取り上げながら、講演や見学、体験を通して探究学習に取り組

んだ。

３年生Ⅱ系列文系の２クラスの生徒は、２年次に学習した内容を生かして「三国の文化資源 プロモーションビデオ」を作成した。２年生の３学期から準備を始め、１学期は動画の作成を中心に行い、2 学期は作成したＰＲ動画をもとに２年間の探究活動についてクラス内発表会を行った。そこで評価が高かった各クラス 2 グループが最終発表会で外部の方や 2 年生に対して発表を行った。

「三国の環境資源探究」について　*※「～として」、文化資源では「～の分野で」*

３年生Ⅱ系列理系の選択者（６名）と２年生Ⅱ系列理系の選択者（１８名）が、三国および坂井・あわら地域の環境資源について、各単元で「講義、見学・実習、レポート・発表、ふりかえり」をサイクルとして学習を進めた。

３年生は、４月から５月は「エネルギー」として、再生可能エネルギー等について北陸電力（株）福井支店の方から講義を受け、三国太陽光発電所と三国風力発電所を見学した。６月には「水の浄化」として福井県下水道公社の方から講義を受け九頭竜川浄化センターを見学、６月下旬から９月にかけては「海洋環境保全」として福井海上保安署の方から講義を受け海上保安署と巡視船を見学した。さらに９月下旬から１０月は「マイクロプラスチック」について福井大学の繊維・マテリアル研究センター教授から講義を受け、マイクロプラスチックの観察・抽出・分析の実験を行った。１１月は「水族館」として、海洋生物の調査、保護・繁殖活動について越前松島水族館館長から講義を受け、水族館のバックヤード見学をした。１１月下旬からは１月は「課題研究」として、これまで学習した内容に関連する各自のテーマで探究活動と発表を行った。発表会には２年生理系の生徒も参加して質疑応答を行った。

２年生は、４月から６月は「エネルギー」、９月から１１月は「水の浄化」、また１２月から３月は「農業」として、地域の農業の特徴や新しい取り組みについて福井県立大学生物資源学部教授の講義を受け同大学あわらキャンパスの研究施設を見学、さらに地域の先進農家からグループインタビューをした。１単位で３年生の半分の時間数であったが、単元ごとの探究を進め発表した。

（エ）地域探究同好会（ワクワク未来考場の活動）

一昨年度から地域との協働活動をする生徒の組織として地域探究同好会「地究」を設立し、ワクワク未来考場として活動を行っている。今年度の特徴は、地域から要請のあったイベントだけでなく、グループで自主的に取り組む地域探究活動を行った点である。

【地域から要請のあった主なイベント】

５月　三国祭ボランティア（山車曳き、法被でハッピー写真撮影など）
６月　三田国際学園中学校との交流（オンラインで「三国」について意見交換）
９月　三田国際学園中学校との交流（修学旅行で滞在。三国での探究活動を支援）
10 月　ハッピーハロウィンブース設置（小学生にクイズを出し、お菓子を提供）
　　みくに大好きプロジェクト会議（現在も継続中）
　　（みくにまちづくり協議会の方と三国を盛り上げる案を協働して考えていく）
　　三国歴史散策（ガイドの方と三国町内の歴史的建造物や史跡を訪問する）
12 月　坂井地区キャリア教育推進フォーラム参加
　　（坂井高校にて探究活動・同好会の活動について発表)
２月　坂井市まちづくりカレッジ最終発表会参加

【自主的に取り組んだ活動】

７月～　以下の３つのグループに分かれ活動を継続中。

・メモリーハンティング　・えちぜん鉄道応援プロジェクト　・三国祭プロ養成

11 月　坂井地区探究活動交流会の開催

（坂井地区の４つの高校の生徒が三国高校を会場に、各学校の探究活動について発表し、意見交換会で情報を共有）

（オ）教科探究学習

家庭科による「三国の伝統文化（刺し子）」の授業を、１年生の５～６月に実施し、作品を７月の保護者会で教室前に展示した。

（カ）学校訪問（先進地見学）

２月に本校の教諭２名が昨年まで地域魅力化型の指定校であった岡山県の和気閑谷高校を訪問し、これまでの特色のある取組や研究指定終了後の状況についてご教授いただいた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な探究の時間，学校設定教科・科目等）

（ア）各教科・科目

地域人材を活用した授業に取り組んだ。

（イ）三高地域魅力化プロジェクト

・１年次の総合的な探究の時間において、三国の地域課題を学ぶ活動を通して得た知識を活かして、三国の空き家活用を実践する取り組みを行った。

・２年次の総合的な探究の時間において、地域の様々な課題について、コンソーシアム団体の協力を得ながら提言案をまとめ、坂井市市議会議員に提言案を発表した。

（ウ）三国地域学

令和３年度より２年生から段階的に学校設定科目「三国地域学」を開設し、各科目との関連を深めた。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

・令和３年度に２・３年生Ⅱ系列文系コースで開講された学校設定科目「三国の文化資源探究」に加え、本年度はⅡ系列理系コースで学校設定科目「三国の環境資源探究」が開講され、理系教科、科目を横断した探究的な学びを進めた。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制

（ア）地域協働プロジェクト推進室

校長、教頭、教務主任および事務局６名の推進室を設置する。

（イ）コンソーシアム団体との連携

推進室が総合的な探究の時間の企画、学校設定科目の企画開発，地域探究同好会の活動計画の立案において、地域協働学習実施支援員と協力し、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

（ア）三高地域魅力化プロジェクト

各学年会の教員が中心になって運営し、それぞれの事業でそれぞれのコンソーシ

アム団体と連携協働し、プロジェクトを推進した。

（イ）地域探究同好会

担当教員２名で拠点となる空き家を活用し、地域住民との交流事業を推進した。

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

（ア）カリキュラム開発等専門家

令和３年度から実施している三国地域学の科目の一つである「三国の文化資源探究」及び令和４年度に実施する「三国の環境資源探究」ついて、実施方法や各教科の横断的な学習の進め方についてアドバイスを受ける。

（イ）地域協働学習実施支援員

三高地域魅力化プロジェクトでの１年生の「空き家活用プロジェクト」や２年生の「坂井市の課題解決の提言」に関して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

（ア）教員研修会

外部有識者（運営指導委員，カリキュラム開発専門家）による総合探究の意義や、カリキュラムマネジメントの研修会を実施した。

（イ）職員協議会

地域協働プロジェクト推進室会議を定期的に開催し、進捗状況の共有を行う。また、職員協議会で取り組みの進捗状況を報告し、取り組みの共有し課題を把握した。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

（ア）三高地域魅力化プロジェクト

１年生は東京都市大学建築都市デザイン学部およびアーバンデザインセンター坂井（UDCS）との協働を中心に事業を推進した。

２年生はアーバンデザインセンター坂井（UDCS）、坂井市議会および坂井市役所との協働によって事業を推進した。

３年生は研究レポートをまとめるため、レポート作成の方法を学んだ。

（イ）三国地域学

カリキュラム開発専門家のアドバイスを受けて、地元企業や地元関係団体と連携している。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

本年度は指定事業の最終年度を迎えたこともあり、特にこれまでの３年間の取組について意見や高評をいただいた。来年度に向けて自走して活動を進めて行くにあたり、継続すべき活動や改善・廃止すべきものについて委員の方々から貴重なアドバイスをいただくことができ、来年度からの新たな地域との協働による探究活動の企画立案に反映させていく予定である。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

（ア）三国の文化資源探究（令和３年度より）

国語科、地歴公民科、英語科、芸術科、家庭科の教員が協力し、三国の伝統・文

化・文学・芸術・歴史・食文化等について探究学習を実施した。

（イ）三国の環境資源探究（令和４年度より）

理科、数学科、保健体育科の教員が協力し、地域の企業や地元大学と連携してエネルギー・環境保全・海洋生物・農業等について探究学習を実施した。

⑪成果の普及方法・実績について

（ア）研究報告書

令和４年度の研究開発実践について研究報告書を作成し、関係のコンソーシアム団体や協力者に配布する。

（イ）広報活動

本校のホームページに様々な活動を掲載し発信した。また広報誌「三高ＮＥＷＳ」を発行し、地元中学校に配布した。

１１　目標の進捗状況、成果、評価

（１）高校魅力化評価システムより

高校魅力化評価システムのアンケートの「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合から見た本校の概要

〔全体像〕

「地域」というキーワードには高い割合で肯定的回答が見られる。他地域よりも明確に高く、地域との協働意識は高い。

〔内容別〕

①学習活動と②学習環境について

・「社会性」が、年度経過とともに上昇している。また、他地域と比べても高い。

（詳細結果）から①学習活動では「14 地域の魅力や資源について考える」「15 地域の課題の解決方法について考える」が他地域に比べ 20 ポイント前後大きく高い。②学習環境では「29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある」「32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある」が他地域に比べ 10 ポイント前後大きく高い。

・学習環境の「協働性」が、年度経過とともに上昇している。

（詳細結果）から「自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある」が前年度に比べ上昇している。また①学習活動の「協働性」（詳細結果）で「９活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う」の３年生の回答が年度を追って大きく伸びている。

③自己認識の「協働性」について

・年度経過ではやや下降しているものの、他地域と比べると依然高い。

（詳細結果）から「50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ」が他の地域に比べて高い。

④行動実績について

・「社会性」が、年度経過ではやや下降しているものの、他地域と比べると依然高い。

（詳細結果）から「69 今住んでいる地域の行事に参加した」「70 地域社会などでボランティア活動に参加した」が他の地域より 10 ポイント前後高い。

（２）目標設定シート

目標設定シートに関する項目については、２月に本校独自のアンケートを実施し、以下の項目について分析を行った。

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

（ア）「三国高校コミュニティデザイナー」等の認定を受けた生徒の割合を最終年次３０％

とする。

昨年度、コミュニティーデザイナーの資格認定について抜本的に考え方を変え、当初の計画より目標設定シートの割合を変更した。本校の教育目標である目指す生徒像「究・挑・結・愛」に基づいて作成した自己評価ルーブリックを３年生全員に対して１月に実施し、その資料を教職員が協議をして３年生の中から認定を行った。新たに認定を受けた３年生は４２名であった。割合は、３年生の生徒数に対して約３２％で最終年次の目標３０％を達成した。本年度の３年生については総合的な探究の時間に併せて「三国地域学」を履修したこともあり、深く地域と協働して探究活動に取り組む機会があり、活動に対する姿勢や成果からもコミュニティデザイナーに資する人材を多く挙げることできた。

（イ）就職志望者のうち県内に就職する生徒の割合を９５％以上、進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合を８０％以上とする。

就職を希望している生徒のうち、福井県で就職したいと思っている生徒と３年生で福井県の会社または地方公共団体に就職の内定をもらっている割合は、９４％で最終年次の目標（９５％）は惜しくも達成できなかった。割合としては昨年度と全く同じである。１年生の就職希望者は８名で、そのうち福井県で就職したいと考えている生徒は５名で割合は６３％である。２年生の就職希望者は９名でそのうち福井県で就職したいと思っている生徒は８名で割合は８９％である。３年生の就職希望者は１８名でそのうち福井県で就職が決定している生徒は１７名であり、割合は９４％であった。

大学・短大・専門学校などの進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合は６２%で最終年次の目標（８０％）を達成できなかった。しかし、昨年度が６２％であったので、割合としては昨年度と全く同じある。１年生の福井県への就職希望の割合がかなり低い。１年生の進学希望者は９１名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は４８名で割合は５３％である。２年生の進学希望者は１０４名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は６４名で割合は６２％である。３年生の進学希望者は１１１名で、そのうち将来福井県で就職したいと思っている生徒は８０名で割合は７２％である。本事業を通じて地元の良さや魅力を知る機会を得られ、それらを理解しているようだが、まだまだ高校生の段階では就職までイメージができておらず、一度地元を離れて外から地元を眺める機会が必要なのかもしれない。

（ウ）アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合を９０％とする。

アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は９２％で最終年次の目標（９０％）を達成している。昨年度の割合８８％から微増となっている。１年生で「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は９１％、２年生では９１％、３年生では９３％であった。

②地域人材を育成する高校としての活動指標

（ア）三高地域魅力化プロジェクトの実施回数を最終年次２０回とする。

<u>最終年次目標　２０回</u>

本年度も総合的な探究の時間では１、２年生ともにプロジェクトを進めるにあたりコンソーシアム関係者の協力をいただいた。昨年度と比べオンライン形式よりも対面での講義やアドバイスを受ける機会が多かった。１年生ではオンライン講義２回、町歩き１回、アズＡＳとの活動１回、アイディア発表会１回、空き家活用プロジェクト本番１回を実施、２年生ではガイダンス講義１回、坂井市役所職員からのアドバイス２回、本

番発表会１回を実施した。また、２，３年生の学校設定科目（三国の文化資源探究、三国の環境資源探究）では講演や見学、発表会を通じて各々２０回、３０回行い、合計で５０回となり目標を大幅に超える結果となった。年を追うごとに、教員も地域の方も協働して教育活動を行える（関われる）と考えるようになり、お互いに win-win の関係が構築できるようになった。

（イ）県内外における合同発表会・研究報告会等への参加回数を最終年次８回とする。

最終年次目標　８回

今年度は、１１月に本校で坂井地区の高校４校合同の探究活動発表会を行い、各校で行　っている取組を発表し、意見交換を行った。また、１２月には坂井地区キャリア教育推進フォーラムに参加し、地域探究同好会の２年生２名が空き家活用プロジェクト、坂井市の課題解決策提言、地域探究同好会の活動について発表を行った。２月には福井大学ラウンドテーブルで２年生の３グループが地域魅力化プロジェクトで行った取組をポスターセッションにて発表した。坂井市主催の「まちづくりカレッジ学習成果発表会」に教員２名と生徒５名が参加し、坂井地区の大人・高校生が取り組んだ活動について拝聴した。３月下旬には羽水高校主催の「高校生探究クロスセッション」にて本校から３グループが参加し、総合的な探究の時間での活動について発表を行うことになっている。また、UDCS 主催の「大学・高校まちづくりリーグ研究発表交流会」にて地域探究同好会の生徒２名が地元のえちぜん鉄道との協働的な取組について発表を行う予定である。その他、教員の研究報告会等の参加については県外１回、県内３回の計４回であった。回数は全体として合計１０回となり、目標を達成することができた。新型コロナの感染症拡大が危惧されたが、行動制限が緩和されたこともあり、対面で生徒たちが参加できる発表会が増えた。また、昨年以上に積極的に参加しようとする姿勢が見られたのは大きな成果であった。

③地域人材を育成する地域としての活動指標

（ア）三高地域魅力化プロジェクトや地域における活動に参画する外部人材の延べ人数を最終年１００人とする。

最終年次目標　１００人

・三高地域魅力化プロジェクト・・・（１年）延べ４２名　（２年）延べ２２名
・学校設定科目・・・（文化資源探究）２年　延べ２６名　３年　延べ２０名
　　（環境資源探究）２年　延べ１５名　３年　延べ２７名
・教科探究学習・・・（家庭科）２名
・地域探究同好会・・・延べ４０名

合計延べ人数１９４名で目標を大幅に上回った。

特に本校の同窓生を中心に、快く講演の講師やアドバイザー、発表の評価者を引き受けていただき、好意的に活動を捉え、やりがいを感じていただいている。講演での内容や伝え方についても年々こちらが期待する形になってきている。ただ、関わっていただく地域の方の数が増えたことで、交渉や打ち合わせを行う教員・コーディネーターの負担が増えており、謝金の問題も懸念されている。

＜添付資料＞目標設定シート　（別紙）

１２　次年度以降の課題及び改善点

（１）研究開発にかかる課題や改善点

３年間、総合的な探究の時間を使って「地域魅力化プロジェクト」を実践してきたが、

大きく分けて２点の課題が見えてきた。１点目は生徒の学びの意欲や主体性についてである。高校魅力化評価システムの結果から「現状を分析し、目的や課題を明らかにすること」、「目的を設定し、確実に行動すること」の評価が低かった。教員側が時間内に授業計画を遂行することに主眼を置きすぎたため、指示が多くなり、生徒たちがじっくりと深く思考する機会やトレーニングが不十分であった。そのため、やらされている感覚があり、受け身的な姿勢で授業に臨む生徒が多かった。来年度は１年次に思考を深める時間とトレーニングの機会を十分に設け、さらに自由にアウトプットが出来る場面を設定していき、「自分たちで考えた」という意識を持てるよう促したい。２点目は「三国地域学」との棲み分けである。地域魅力化プロジェクトも三国地域学も「地域」をテーマに活動していく授業なので、学習内容が似ていたり、発表の機会が重なったりすることがあった。カリキュラムや授業計画において、両者が有機的に結びついて連携・連動できる仕組みを考えていく必要がある。

（２）自走に向けた方向性

（ア）スクールポリシーを基にしたカリキュラムマネジメントの推進

本年度より、スクールポリシーを生徒たちに提示し、この授業を通じて身につけるべき力を共有したが、授業自体がまだまだそれを意識しての目標設定や活動計画になっていない。職員協議会や研修会（各教科の教科会）を通じてカリキュラムマネジメントの推進を行い、目的・目標と手立てが合致した活動を考えていく。また、機会を見てＰＤＣＡサイクルを回しながら評価・改善を行っていく。

（イ）坂井市との協力体制

３年間を通じて構築してきた坂井市との関係をさらに密にしていく。坂井市では来年度から「坂井市高等学校魅力化支援事業」を立ち上げ、坂井市内の高等学校で行われている事業を支援してくださる予定である。新規性・発展性があるもの、生徒が主体的に考えた企画、効果が検証できるものであるという条件はあるが、本事業で培ってきたノウハウを活かし、採用される企画を考えていく。コーディネーターの勤務日、時間の拡充についても要望をしていく予定である。

（ウ）探究的な学習の各教科への拡大

スクールポリシーの実現は単一教科では不可能で、すべての教科で取り組む必要がある。本事業であまり推進できなかった教科横断的な学習を進めていく。例えば、発表等で必要な表現力の育成を国語科が担ったり、三国の食・特産の学習では食材について家庭科で掘り下げて学習したりするなど、各教科の特性を活かしながら、それぞれが探究学習を支える形になるようにしていく。

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	ＴＥＬ	0776-20-0570
氏　名	板倉　孝司	ＦＡＸ	0776-20-0669
職　名	高校教育課　主任	e-mail	k-itakura-71@pref.fukui.lg.jp